

そ  
し  
て  
未  
来  
へ

# 昭和村

からむし織の里

〔昭和村勢要覧〕



## ◎村長挨拶

東京電力福島第一原子力発電所事故から十一年が経過しました。村内でも未だに東日本大震災の影響が残っておりますが、ようやく野生キノコの中でもクリタケやナメコなどは出荷できるようになりました。また、平成二十三年七月新潟・福島豪雨災害からも十年が経過しました。甚大な被害を受け一部区間が不通となったJR只見線は、今秋の再開通を目指し復旧工事が進められており、会津地方の活性化が期待されるところです。そして、世界的に大流行した新型コロナウイルス感染症が、国内で初めて確認されてから二年が経過しました。この間、未知の感染症に翻弄されましたが、村民の命を第一に考え、新たな生活様式を取り入れながら、感染の拡大防止に取り組んでまいりました。村民の皆様の御理解と御協力に對しまして、改めて感謝を申し上げます。

このような中、デジタル技術はますます進展し、自治体におけるデジタル変革が求められています。本村でも、鳥獣被害対策におきましては、電気柵等を設置した後の維持管理に係る労力を軽減するため、情報通信技術を用いた実証実験を行っているほか、除雪車両の遠隔操作に向けた実証実験なども始めたところです。これからも、デジタル技術等あらゆる手法を活用して住民サービスの充実を図り、先端的過疎への挑戦を続けてまいります。

一方、本州で唯一となる「からむし」の栽培は、決

して絶やすことなく現在に至るまで、本村の風土・生活の中で大切に受け継がれてきました。平成六年度から二十八年間続く「からむし織体験生事業」は今年度で百二十九名の織姫と彦星を受け入れ、現在も三十四名の方々が村内での暮らしを続けておられます。昨年には、伝統技術「からむし織」伝承と後継者育成に関する取組が、県内で初めて「地域発！いいもの」として国から選定され、大きな励みになったところです。

昭和かすみ草についても、コロナ禍にありながら、今年度は販売額が五億六千万円を超え、過去最高を大幅に更新しました。昨年、昭和村農林水産物集出荷貯蔵施設(雪室)を改修した効果が、品質の向上に寄与したものと考えます。現在、国に申請している地理的表示保護制度に基づく「昭和かすみ草」のGI登録が実現されれば、より一層のブランド化が図られるものと期待しております。

本村の人口は、昭和三十年をピークに急激な減少に転じました。国勢調査によると、令和二年十月一日現在の人口は千二百四十六人でした。前回調査の平成二十七年より七十六人(五・七パーセント)減少しましたが、昭和四十年以降の調査においては、最も小さな減少率に抑えられました。このことは、昭和村空き家バンク制度を活用するなどして、前回調査から五年間、転入者が転出者を上回ったことが一つの要因に挙げられます。

さらに、村民の長年の悲願でありました博士峠のバイパス整備につきましては、昨年七月に博士峠トンネルが貫通しました。バイパスの完成は本村に

とつて希望の光であるとともに、奥会津地域はもとより会津地方、ひいては福島県の更なる発展をもたらすものと考えております。

令和二年には「日本で最も美しい村」連合の一員に加えていただきました。本村の豊かな自然や伝統などを発信することで、交流人口の拡大を始め、村民自らが本村を美しいまま将来に引き継ぐという意識の醸成につながるものであります。

さて、昨年策定した第六次昭和村振興計画では、さらに百年後も昭和村が昭和村であり続けるために、これからの十年間の基本構想をまとめました。昭和村で「こちよく」暮らす。足を知り、「今・ここ」をしっかりと生きるということが大事なことであります。村民の皆様が「てえらな心」で心穏やかに、不安なく暮らしていけるよう、一步一步着実に村づくりを進めてまいりたいと考えております。

令和四年三月

昭和村長 舟木幸一





◆ 村長挨拶

百年先の子どもたちへ ..... 02

伝え続けるからむしの営み ..... 04

日本一のかすみ草 ..... 06

百年後も美しい村 ..... 08

縁を慈しむ村 ..... 10

◆ 昭和村歴史の記録 ..... 12

◆ 昭和村の宝 ..... 22

◆ 安心な暮らしのために ..... 24

(第六次昭和村振興計画より)

持続可能な協創のむら ..... 26

心地よく暮らせるむら ..... 27

生きる力を育む教育のむら ..... 28

生業と誇りある仕事を生むむら ..... 29

先端的過疎への挑戦 ..... 30

選択と集中の行政運営 ..... 31

行政・議会 ..... 32

◆ 村章・村民憲章・花木鳥



# 百年先の 子どもたちへ

この昭和村には、  
たくさん素晴らしい宝があります。

山々に囲まれた豊かな自然、四季折々の景色、  
六百有余年の間途絶えることなく栽培されている  
「からむし」、

強靱で涼やかさが特徴のからむし織、  
夏秋期の生産量が日本一のかすみ草、  
昭和村に暮らす人々…。

人口約千二百人の小さな村ですが、  
昭和村がより良い村になってほしいという想いは、

昔も今も、これからも変わりません。

今、昭和村に暮らす私たちができることは、  
「昭和村がこういう村になってほしい。」  
と未来を描くことです。

そして、村の資源・宝物を磨き、  
挑戦する心を持ち続けることです。

百年後も昭和村が昭和村であるために、  
百年先の子どもたちにも  
昭和村を残していくために。





道の駅 からむし織の里しょうわ 織姫交流館

# 伝え続ける

# からむしの営み

古くから上質な麻布生地を用いられてきた「からむし」を、昭和村では途絶えることなく栽培し続けています。からむしの生産が始まったのは、伝承によれば中世蘆名氏の時代と言われていますが、村での栽培を古文書で確認できるのは江戸時代中期頃からです。

長らく麻とともに栽培されてきたからむしは、イラクサ科の多年生植物で、種ではなく、根株を増やし守っていくことで絶やさずに受け継いできました。

五月末頃に古い畑から根を掘り起こし、良い部分だけを選別し改めて植え付けていきます。「からむしだけは絶やさな。」という言い伝えを大切に、戦後の食料窮乏期も根株を守り伝えた歴史があります。

からむしを手間暇かけて丁寧な栽培してきたのは、高い品質を確保するためです。葉の裏が青いからむしから上質の繊維が採れるとして、代々この系

統を選別基準に殖やし栽培しています。織りのメインシーズンには春先。豪雪地で知られる本村の、緩み始まった雪の湿度が織糸に良い条件を与える時期です。





## からむし栽培の流れ



### 5月 | からむし焼き

からむしの発芽をそろえて成長が均一になるようにするため、二十四節気の小満の日を目安にからむし焼きを行います。病害虫の発生を抑える目的もあります。



### 7~8月 | 刈り取り

からむしの収穫は7月下旬から8月上旬にかけて行なわれます。手作業で一本ずつ刈り取り、選別し、葉を落として茎を規定の長さに切り揃えます。その後冷たい清水に浸けます。



### 7~8月 | からむし剥ぎ

数時間から一晩ほど浸した茎からていねいに皮を剥いていきます。剥いた皮を乾燥から防ぎ、青水(青汁)を抜くための再び清水に浸けます。



### 7~8月 | からむし引き

苧引き具で、剥いた皮の外皮を除き、からむしの繊維を取り出します。取り出した繊維は、2日程度陰干しして乾かします。



### 11月~ | からむし績み

からむし引きで取り出された繊維を糸の太さに合わせて裂き、繊維を繋ぎあわせませす。非常に根気のいる作業で、冬中行なわれます。繋いだら全体に糸車でよりをかけて糸を完成させます。



### 11月~ | からむし織

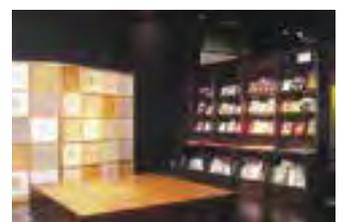
作られた糸は昔ながらの地機(じばた)にかけられ手織りされます。織目の整った帯や反物を織り上げるには熟練の技術が必要です。

本村も人口減少と後継者不足など、過疎化問題の解決に取り組んでいきます。今でこそ「田舎暮らしをしながら伝統を継承したい。」と転居する人の動きは全国的な広まりと言えますが、村では先駆けること四半世紀前から「からむし織体験生制度」を立ち上げ、「織姫・彦星」として若者を招き、後継者の養成と継承に取り組んできました。これまでに百二十九名が体験生となり、そのうち三十四名が村に残って活躍しています。「織姫」の定住は、地道ではありますが後継者・若者の結婚、過疎化対策への好例となったと言っても過言ではないでしょう。

近年ではそれぞれの感性を生かした制作を行う「卒業生」の織手たちが、新しい視点によるからむし作品を発表しています。

現在、本村ではからむしの栽培が三十五軒前後、織手は十数名が活動しています。

国伝統的工芸品の指定を受けましたが、からむし織は全工程が手作業であり、大量生産には向きません。これまでの継承を絶やさないうよう人材の育成と産業面での振興をさらに図っていくのが今後の目標です。





かすみ草栽培の流れ



10月| ハウス解体 | 7~8月| 開花・収穫(10月頃まで続く) | 6月| 苗の定植 | 5月| 畑づくり | 4月| ハウス建設 | 3月| 育苗、除雪

# 日本一のかすみ草

夏秋期の生産量が日本一を誇る昭和かすみ草は、花が大きく日持ちする品質の高さが特徴です。昭和村農林水産物集出荷貯蔵施設を通して出荷されたものを「昭和かすみ草」と呼びます。

この集出荷貯蔵施設の中には大型ダンブ約三百台分の雪が搬入され、予冷库に自然の冷気を送り出すことができます。いわゆる雪室です。令和三年度に予冷库の拡充・機能強化が図られ、低温仕分室から常温の場所を経由することなく、直接トラックへの積み込みが可能となるパーフェクトコールドチェーン（低温流通体系）が確立されました。

このような中、子どもたちが村の基幹産業であるかすみ草生産を知り、自分が住む村に誇りが持てるよう「花育」を実践しています。小学生は生産農家を訪問したり、雪室を見学するほか、中学生になると実際にかすみ草を育て、染色や販売まで体験します。

令和三年度の栽培農家は五十二戸です。平成二十九年年度から新規就農者を募るインターンシップ事業「かすみ草の学校」を開始しました。まずは昭和村を知ってもらうことを入り口に、三つのコースを設定、六月から十月に

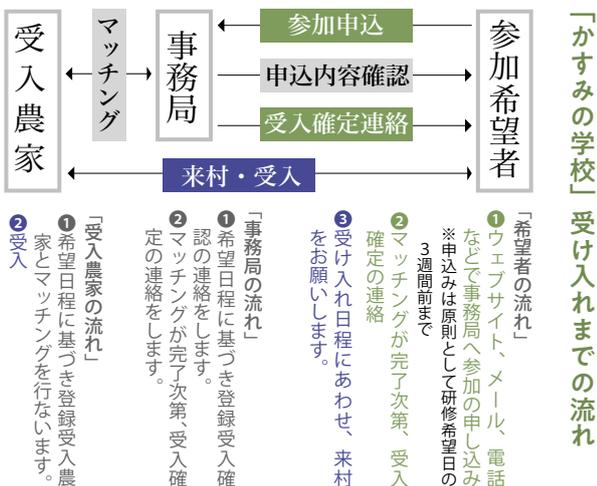
かけてかすみ草栽培が体験できます。また、かつての新規就農者が新規就農予定者を指導するサイクルもできつつあります。

近年のコロナ禍は経済においても大きな影響を落とす一方、家の中で快適に過ごすことを重視した消費行動（巣ごもり需要）や、染めカスミの需要が好調で、昭和かすみ草の販売額は過去最高となる五億六千万円を超えました。

今後、国の地理的表示保護制度に基づく「昭和かすみ草」のGI登録が実現すれば、更なるブランド化につながるものと大きく期待しています。百年先もかすみ草を作り続ける産地を目指し、これからも積極的に取り組んでいきます。



大型ダンブ約300台分の雪を搬入した「雪室」でカスミソウを予冷・出荷調整・保存します。



「かすみの学校」で新規就農希望者を支援



# 百年後も 美しい村

令和二年十月に昭和村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しました。

「日本で最も美しい村」連合は「フランスで最も美しい村」連合を模範として平成十七年に設立されました。失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観や環境、文化を守り、地域資源を生かしながら美しい村としての自立を目指す運動を展開しています。

「日本で最も美しい村」連合の運動は、環境や景観の保護だけが目的ではなく、その地域が先人から受け継ぎ、大事に守り育んできた産業・文化・歴史・生活が景観に醸成されていることを求め、評価するものです。

連合の加盟審査では、「古より伝わるからむし織」と、「日本一のカスミソウと木造校舎が残る昔懐かしい農山村風景」の二つが昭和村の地域資源であると高く評価されました。

この加盟を機に、連合主催の物産展や各種イベントなどに参加し、昭和村のPR・宣伝活動を行うとともに、全



国の町村・地域との相互交流を深めています。

また、道の駅からむし織の里しようわに「日本で最も美しい村」の一員であることを示す看板を設置するなど、情報発信やむらづくりを生かしています。

美しい村の、美しい暮らしをつくるのは、私たち村民一人一人の、小さな一歩の積み重ねが大切です。加盟から五年ごとに行われる加盟資格の再審査で継続を認められるためには、昭和村ならではの美しさに磨きをかけるとともに、景観形成を進め「百年後も美しい村」を目指し、村民みんなで運動を盛り上げていきたいと考えています。



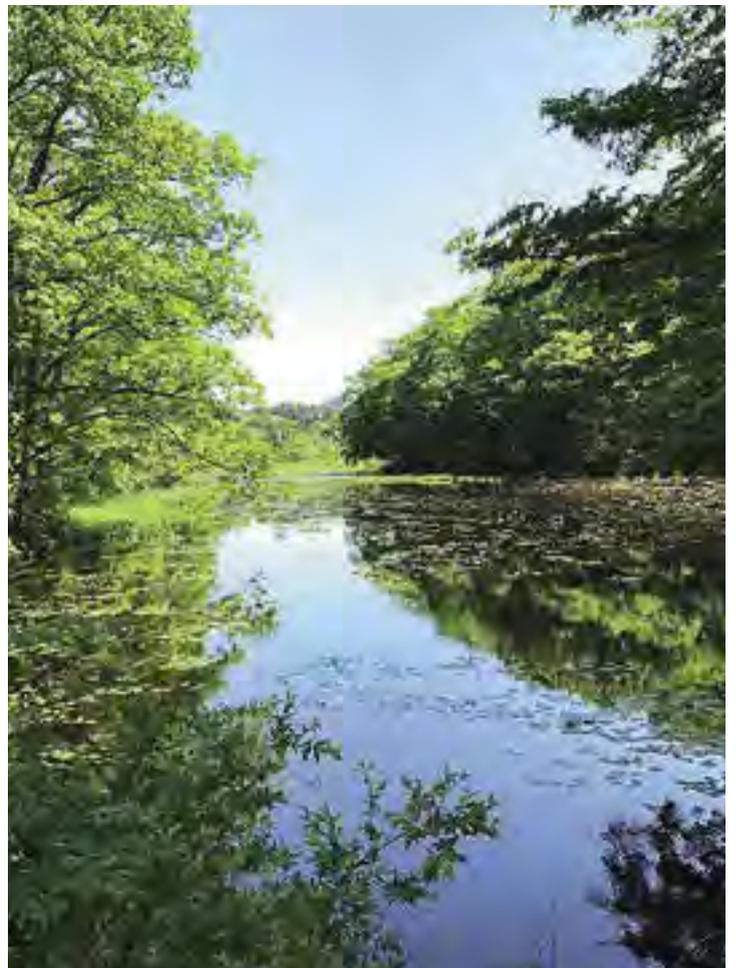
交流観光拠点施設「喰丸小」



田園風景



冬の昭和村全景



村指定 天然記念物 矢ノ原湿原

# 縁を慈しむ村

人が集えば笑顔が生まれ、互いを思いやる言葉が飛び交います。

山峡の集落は、大きな家族のようにコミュニティを維持してきました。かつて「結」といわれた労力を交換する相互扶助の精神は、今も脈々と息づいています。

豪雪は農耕への恵みともなり、翻って、災厄をもたらす厳しい脅威となります。ひとり暮らしの高齢者の家や神社を、集落総出で雪下ろしをするのは例年の営みの一部となっています。こうした集落ごとの協働作業は、折あるごとに行われ、集うことで共同体としての結束を強固にしてきました。

人の縁に感謝し慈しむ日常は、村外から訪れる人々にも惜しみなく心を差し出す風土を生んでいます。

織姫事業は当初、村外から移住してきた織姫さんを各家庭が家族の一員として迎え入れることから始まりました。高齢の技術者たちは、持てる限りの技術を伝えようと心を砕き、住民は、山奥での暮らしに戸惑いはないかと気

遣いました。

人と人の縁は有り難いもの、大切に慈しみ共に暮らそうと、集落ごとの年中行事はもとより、住民主導の多様な集いの場が展開されています。

歳ノ神や両原早乙女踊りは、極寒の節に行われ、催事の準備は次世代に作法や精神を伝授する学びの場でもあります。祭りの高揚は、積極的な学びを促します。

映画「ハーメルン」の撮影場所となったことを機に保存されることになった木造校舎・喰丸小での「イチョウまつり」は、地区住民の喜びが形を成して自然発生的に生まれ、また、二〇二二年には、希望する村民が交代で出店する、「喰丸小チャレンジショップ・よいやれ屋」が誕生しました。山菜や食品、手作りの工芸品、手芸品や洋服、本など多岐にわたる内容に、村外からの来店者も多く訪れます。

人との縁がさらに豊かな縁を繋ぎ、笑顔が溢れる村は、いつも村民が主役です。



両原の早乙女踊り



小中津川盆踊り



美女峠道普請風景



イチョウまつり



歳ノ神



喰丸小チャレンジショップ・よいやれ屋

## ■昭和村の誕生から ※日本の動向 ※世界の動向

1927	昭和2	11月23日野尻村・大芦村が合併、昭和村誕生 村役場を下中津川字新屋敷に設置 下中津川尋常小学校に高等科設置
1928	3	下中津川尋常小学校改築 張作霖爆殺事件
1929	4	喰丸・田島線県道認定 玉川水力発電(株)、昭電社と改称 世界的経済大恐慌
1930	5	大芦尋常小学校改築 ロンドン海軍軍縮条約
1931	6	冷害 大沼郡西部、南会津郡西部町村、柳津町及び野沢町で 交通改善期成同盟会結成 柳条湖事件、満州事変
1932	7	時局匡救事業として舟鼻峠改良工事着手 満州国建国、上海事変
1933	8	豪雪(12月～5月) 国際連盟脱退 米、ニューディール政策開始
1934	9	冷害・凶作 野尻尋常小学校改築 若松・田島間鉄道開通 ワシントン、ロンドン条約破棄 独、ヒトラー総統就任
1935	10	各集落に御賜郷倉設置 豪雪(12月～3月) 湯川秀樹、中間子理論
1936	11	二・二六事件 日独防共協定
1937	12	喰丸尋常小学校改築 4青年学校開設 昭和信用販売購買利用組合発足 下中津川地区耕地整理起工 盧溝橋事件(日中戦争) 日ソ不可侵条約調印 物資不足、戦争体制進行
1938	13	県立昭和診療所開設(川口村開業医週1回出張診療) 国家総動員法
1939	14	昭和村警防団設置 野尻郵便局新築、電報・電信取扱い開始 昭和電信電話取扱所設置 大岐季節分校開設 第2次世界大戦
1940	15	昭電社は新潟電力会社に譲渡 宮下駅設置、鉄道開始 喰丸郵便局電信電話取扱い開始 日独伊軍事同盟 米穀供出制度、通帳による配給制
1941	16	尋常小学校は国民学校に改称 柳津・宮下間鉄道開通 昭和電信電話取扱所は昭和郵便局となる 日ソ中立条約 太平洋戦争(日本軍真珠湾攻撃)
1942	17	東京初空襲 ミッドウェー海戦 生活必需品切符制
1943	18	博士山を中心とする地震発生 国策として食糧、木炭増産
1944	19	野尻、大芦、喰丸国民学校に高等科設置 4青年学校廃止、昭和村青年学校となる 昭和村森林組合設立 金属類、座布団及び綿回収

### COLUMN

## 明日への思いが誕生させた新生昭和村

### 歴史の始まり

戊辰戦争が終結し、新政府の誕生とともに年号も明治となり、社会の仕組みや生活様式など、全てのものが変わっていった。村には小学校が建てられ、子どもたちは学校へ通うようになった。郵便局ができ、地租改正が行なわれた。村議会もでき、近代化を目指して目まぐるしく変化していった。

しかし、明治27年の日清戦争を始め、虫食い凶作、不景気、第二次増税、明治35年には大洪水にみまわれ、その2年後に日露戦争が勃発。その翌年にまたもや大凶作が襲い、生活は逼迫するばかりであった。

しかし、そんな苦しい時代の中でも、夜学に通って勉学に励む人たちや、婦人会や青年会などを結成し、村の活性化を図ろうとする人たちなど、人々はくじけることはなかったし、村のだれもが豊かな明日を目指して頑張った。

大正時代に入ると、近代化を図る強力な自治体の出現が望まれ、野尻村・大芦村の両村合併の気運も高まっていった。

両村の協議が幾度となく活発に行なわれ、昭和2年(1927)11月23日、野尻村と大芦村の合併が成立、新生昭和村の誕生となった。



合併後の役場と村政担当者たち。



明治時代の苧引き

## ■昭和村の誕生から ※日本の動向 ※世界の動向

- |      |    |  |
|------|----|--|
| 1945 | 20 | 大芦小学校畑小屋分教場が常設分校となる<br>松根油緊急増産施設設置<br>引揚者の帰村始まる<br>冷害<br>広島、長崎に原爆投下<br>ソ連、対日宣戦<br>ポツダム宣言受諾(太平洋戦争終結)<br>ヤルタ会談、ドイツ無条件降伏<br>国際連合成立  |
| 1946 | 21 | 大芦館垣山地区、小野川奈良布地区開拓入植<br>軍人・軍属復員140名、戦没者公報35名、喜びと悲しみの大きな年となる<br>天皇の人間宣言<br>農地改革<br>日本国憲法公布<br>衆議院議員選挙から婦人参政権行使  |
| 1947 | 22 | 役場庁舎を中学校仮校舎とするため、役場を下中津川字宿ノ原に移転<br>村長、村議会議員選挙実施<br>昭和村消防団設置<br>玉川、日落沢季節分校開設<br>豪雨災害<br>食糧供出が厳しくなる<br>農業協同組合が組織化<br>学制改革(六三三四制実施)<br>独占禁止法、労働基準法公布<br>キャスリン台風<br>村長、村議会議員が公選制度<br>日本国憲法施行 |
| 1948 | 23 | 県立川口高校昭和分校設置<br>村教育委員会発足<br>大芦地区に電話が架設<br>小野川地区に電灯設備<br>川口村に県川口地区農業改良普及所開設<br>昭和村農業協同組合発足<br>極東軍事裁判終結<br>大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国成立  |
| 1949 | 24 | 昭和中学校校舎新築<br>見沢季節分校開設<br>両原地区耕地整理事業起工<br>湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞<br>北大西洋条約機構調印<br>中華人民共和国成立   |
| 1950 | 25 | 中向地区耕地整理事業起工<br>村役場庁舎落成、下中津川字中島向に移転<br>朝鮮戦争  |
| 1951 | 26 | 5月3日下中津川大火、罹災世帯127世帯・人口793人、被害額2億3千万円、災害救助法発動<br>役場庁舎、下中津川小学校焼失、再建<br>村営住宅21戸建築<br>農業委員会発足<br>昭和・川口間のバス運行開始<br>サンフランシスコ講和条約、日米安全保障条約調印<br>太平洋安全保障条約                                      |
| 1952 | 27 | 昭和村防犯団体設置<br>県立川口高校昭和分校校舎落成<br>坂下営林署見沢事業所開所<br>昭和・田島間バス運行開始<br>破壊活動防止法成立   |
| 1953 | 28 | 葉たばこ栽培導入<br>冷害   |

### COLUMN

不況・凶作・戦争  
それでも明日を信じて

度重なる不況と凶作の打撃から自力で立ち上がろうとしていた昭和村だったが、昭和6年(1931)の満州事変以降、日本は大陸へ進出、戦争経済の渦は激しさを増し、昭和村も次第にその渦に巻きこまれていった。昭和12年(1937)に日華事変が起こり、昭和16年12月(1941)ついに太平洋戦争へと突入していった。日華事変の開始とともに、国家総動員法が公布され、戦争遂行のために国民に精神的な努力と耐乏生活の強化をすすめていった。

昭和村からは639名もの青年たちが召集令状によって動員されていった。大陸での戦争には軍馬が必要とされ、農耕馬まで動員、それによって農村の労働力は激減したが、政府は戦意高揚のためと称し、諸行事や防空演習、出兵兵士の見送り等を行ない、一方では食糧の増産を呼びかけたが労働力不足によってまならい状況であった。戦争末期になると、物資ばかりか飛行機を飛ばす燃料さえも不足し、それを補うために松根油製造を開始した。村民は毎日山から松の根を掘り出し、下中津川の釜場で松根油の採取を行なったという。しかしその努力も空しく昭和20年(1945)太平洋戦争に敗れることとなった。



下中津川の大火事。この後、消火施設の充実が急速に進められ、火災件数も少なくなった。

## ■昭和村の誕生から ※日本の動向 ※世界の動向

1953	28	テレビ放送開始 ソ連、スターリン死去
1954	29	自衛隊発足
1955	30	こんにゃく栽培導入 国勢調査実施(世帯数812世帯、人口4,810人) 人口ピークとなる 第1回原水爆禁止世界大会
1956	31	村国民健康保険開始 県立昭和診療所を譲り受け、昭和村国民健康保険直営診療所開設 昭和中学校へき地集会所落成 宮下・川口間に鉄道開通 日ソ共同宣言(国交回復) 国連加盟
1957	32	米作日本一福島県競作会で酒井初佐氏(下中津川)反収4.9石余で1位となる 木賊林道開通 患者輸送車整備 診療所にレントゲン整備 木炭の生産、需要が最盛期 東海村の原子炉点火 ソ連、人工衛星スプートニク成功
1958	33	村民大会開催 失業対策事業開始 台風21、22号で洪水被害 佐倉地区耕地整理事業起工 ソ連、フルシチョフ首相就任
1959	34	大芦地区耕地整理事業起工 仏、ドゴール大統領就任
1960	35	人口流出激化 日米新安保条約調印 安保闘争 浅沼社会党委員長暗殺
1961	36	歯科診療開始 国民年金業務開始 喰丸小学校へき地集会所落成 米、ケネディ大統領就任
1962	37	野尻、大芦小学校へき地集会所落成 畜産振興のため、村有和牛貸付制度開始 昭和村商工会設立発足 各地区に子供会結成
1963	38	豪雪により災害救助法発動、ヘリコプターで医療団飛来下中津川小学校へき地集会所落成 除雪用ブルドーザー整備 下中津川季節保育所開設 昭和村振興5ヶ年計画策定 原水禁大会分裂 ケネディ大統領暗殺
1964	39	三島村外二町一ヶ村衛生処理組合設立 田島・金山線が主要地方道昇格 小野川分校へき地集会所落成 小中津川季節保育所開設 へき地患者輸送車整備 村老人クラブ連合会結成 東海道新幹線開通 東京オリンピック
1965	40	燃料革命が進み、木炭生産激減 野尻、中向に簡易水道敷設 昭和中学校寄宿舎落成 へき地農山漁村電気導入事業により、畑小屋・山神平地区未点灯解消 正月行事は新暦(太陽暦)となる



徴兵検査。日本男子のけじめの一つであり、甲種合格となって入隊することは名誉なことだった。



昭和31年5月、バスが大芦まで延長された。



昭和32年8月、昭和村で劇団上演。



畑小屋・山神平地区電気導入事業落成式にて。

## ■昭和村の誕生から ※日本の動向 ※世界の動向

1965	40	朝永振一郎ノーベル賞受賞 米軍ヴェトナム北爆開始
1966	41	野尻、松山地区農業構造改善事業開始 小野川へき地出張診療所落成 松山地区簡易水道敷設 へき地農山漁村電気導入事業により、日落沢地区未点灯解消 振興山村指定 政府売渡米1万俵突破 第1回日韓経済閣僚会議 中国文化大革命
1967	42	村行政機構改革により課設置 葉たばこ収納所落成 吉田茂死去 中東戦争
1968	43	へき地農山漁村電気導入事業により、玉川地区未点灯解消 野尻婦人会、県優良社会教育事業団体表彰受賞 野尻、大芦にへき地保育所開設 林道赤坂線開通 村章制定 NHK昭和、東昭和両放送局開局 大芦地区婦人開拓ホーム落成 児童館落成 教員住宅落成 明治百年記念式典挙行 議会議員定数減少条例可決(定員16名から12名となる) 雪上車配置(県貸付) 小笠原諸島返還 東大をはじめ各地で大学紛争
1969	44	集中豪雨災害、住家全半壊103戸、床上床下浸水239戸、 罹災人員1,624人、被害額21億2千万円、災害救助法発動 生活改善センター落成 喰丸へき地保育所開設 農集電話普及、388戸 昭和村土地改良区発足
1970	45	役場庁舎落成、下中津川字中島に移転 消防ポンプ自動車整備 交通安全宣言 駒止湿原が国天然記念物に指定 県営矢ノ原地区農地開発事業着手 小野川地区圃場整備起工 黒鉱開発調査により野尻新町地内に温泉湧出、権利を 取得し簡易建物建築 万国博開幕 三島事件
1971	46	昭和中学校、下中津川小学校併設学校プール落成 特別豪雪地帯に指定される 昭和村商工会館落成 昭和村国民健康保険直営診療所改築落成 過疎地域に指定される 村振興計画策定 会津若松地方広域市町村圏協議会発足 米、ドル防衛策発表(ドル・ショック) インド・パキスタン戦争
1972	47	大芦へき地保健福祉館落成 野尻小学校プール落成 学校給食センター落成 会津若松地方広域市町村圏整備組合発足、広域消防昭和 分遣所開設、消防自動車、救急車、連絡車設置 林道柳沢線開通 下中津川地区水稻育苗センター落成 ごみ収集車整備、収集開始 下中津川一ノ沢地内にスキー場開設

## COLUMN

### 災害との戦い 土地を耕し作物を育て笑顔を見せて

昭和村には、台風、水害、豪雪、冷害、凶作、火災などによる被害が昔から幾度となく襲い、その度に村人を苦しめてきた。

なかでも、昭和村は洪水の多いところで、川幅の狭い野尻川は百ミリ以上のまとまった雨が降るとすぐにあふれ、その都度家屋の浸水、橋梁、道路、堤防を破壊し、かけがえのない耕地まで容赦なく流した。

明治以来の記録をみても、2・3年に一度は必ず洪水が襲っており、毎年のように続く復旧工事は村の財政を圧迫した。

中でも、昭和44年(1969)の大洪水は白髭水以来といわれ、8月2日～13日まで降り続いた雨は累計462.4mmを記録、村内各地の堤防が決壊、濁流が怒涛となって集落に押し寄せ、多大な被害を被った。幸い死者はなかったが、負傷者14名、家屋流出20棟、半壊・破損・浸水304戸、734人が罹災し、被害額は21億4千万円にものぼった。

夏から秋にかけての水害、そして冬は豪雪に見舞われながらも、人々は土地を耕し、作物を育て、明るい笑顔をみせながら、逞しく生きている。



昭和44年 8月12日 集中豪雨災害

## ■昭和村の誕生から ※日本の動向 ※世界の動向

- 1972** 47 老人医療無料化実施  
あさま山荘事件  
沖縄返還実現  
田中角栄首相訪中、日中共同声明、台湾日本と断交  
**東西独基本条約調印**
- 
- 1973** 48 44年災害復旧事業竣工式典  
老人休養ホーム「しらかば荘」落成  
喰丸克雪管理センター落成  
大芦小学校プール落成  
小野川地区保育ママ開設  
喰丸、小中津川地区圃場整備起工  
中沢精工操業開始  
村史「昭和村の歴史」出版  
石油危機、狂乱物価現象  
**ピカソ死亡**  
**第4次中東戦争**
- 
- 1974** 49 林道不動沢線開通  
小野川地区水稻育苗センター落成  
喰丸小学校プール落成  
ごみ処理施設三島町に完成  
豪雪  
**米ニクソン大統領辞任**
- 
- 1975** 50 からむし織の製品開発始まる、絹織物導入  
野尻地区水稻育苗センター落成  
小野川分校プール落成  
小野川・柳津線が主要地方道に昇格  
沖縄海洋博開幕  
**ヴェトナム戦争終結**
- 
- 1976** 51 小野川分校改築落成  
大芦地区育苗センター落成  
奨学資金貸与制度開始  
福島テレビ昭和、東昭和両放送局開局  
矢ノ原湿原が県の自然環境保全地域に指定  
県立川口高等学校昭和分校閉校  
冷害  
ロッキード事件発覚、田中前首相逮捕  
**天安門事件**
- 
- 1977** 52 昭和電報電話局落成、電話が自動化  
福島中央テレビ昭和、東昭和両放送局開局  
葉たばこ育苗施設整備  
小学校統合条例可決  
昭和村合併50周年記念式典  
日本赤軍ハイジャック事件
- 
- 1978** 53 小野川生活改善センター落成  
昭和中学校スクールバス運行開始  
成田空港開港  
日中平和友好条約調印
- 
- 1979** 54 **ダグラス・グラマン疑惑**  
元号法案可決  
東京サミット  
**米中国交樹立**  
**ソ連アフガニスタン侵攻**
- 
- 1980** 55 大芦、喰丸、下中津川、野尻小学校が統合し昭和小学校となる  
**イラン・イラク戦争**
- 
- 1981** 56 喰丸トンネル開通  
大芦地区簡易水道敷設  
昭和村保育所落成  
主要地方道田島・金山線国道400号に昇格  
大芦防雪管理センター落成  
**サダトエジプト大統領暗殺**
- 
- 1982** 57 下中津川一ッ坪地内地滑り発生



村史「昭和村の歴史」。



合併50周年記念祝賀式。



統合により閉校する喰丸小記念碑除幕式(広報表紙)昭和54年11月号。



昭和56年9月 喰丸トンネル開通式。4年の歳月と総工事費7億2千万円をかけた。全長500メートル、会津若松まで1時間30分に短縮。



葉タバコ収納のようす。葉タバコはこんにやくと共に村が戦後特に力を入れた作物。

## ■昭和村の誕生から ※日本の動向 ※世界の動向

1982	57	村営権現山スキー場完成 上昭和地区簡易水道整備事業着手 運動広場施設完成 教科書検定問題
1983	58	からむし会館落成 からむし生産用具とその製品が県の有形民俗文化財に指定
1984	59	昭和中学校新校舎落成 野尻地区簡易水道増補改良工事成 上昭和地区簡易水道完成 高齢者コミュニティーセンター落成 葉たばこ収納所廃止
1985	60	第1回「雪まつり」開催 第1回「からむしの里手織りフェア」開催 中向地区土地改良総合整備事業開始 ライスセンター完成 電電公社、専売公社民営化 日航機墜落
1986	61	玉川渓谷「ふくしまの水30選」に認定 交通死亡事故ゼロ4千日達成 東京サミット ソ連チェルノブイリ原発大事故
1987	62	しらかば会館落成 第1回「矢ノ原そばまつり」開催 国鉄民営化 リクルート疑惑 地価狂乱 米ソ、中距離核兵器廃棄条約調印
1988	63	イラン・イラク戦争終結
1989	平成元	交通死亡事故ゼロ5千日達成 下中津川地区圃場整備開始 昭和天皇崩御、第125代天皇即位 消費税実施 第2次天安門事件
1990	2	健康増進施設完成 村公民館新築落成 会津線電化による開業、田島駅からの乗り入れが開通 「村民のうた」発表会開催 ゴルバチョフ初代ソ連大統領就任 ドイツ統一 中東危機
1991	3	村営住宅完成、入居開始(2世帯7名) 交通死亡事故ゼロ6千日達成 ペルシャ湾に自衛隊派遣 ワルシャワ条約機構完全解体 ソ連邦消滅 湾岸戦争
1992	4	奥会津昭和の森オープン 県道会津若松-南郷線国道401号に昇格 舟鼻トンネル開通 無火災千日達成 旧喰丸小学校が「文化再学習センター」として活動開始 第3回福島県縦断駅伝大会に初出場 PKO協力法成立 東京佐川急便事件 学校週5日制スタート
1993	5	第1回「きのこまつり」開催 JA昭和中で花き販売額2億円を達成 全国的な冷夏 細川非自民連立内閣発足 欧州連合条約発効
1994	6	からむし織体験生(織姫)事業開始 村営住宅(特定優良賃貸住宅)1棟6戸建てが完成

## COLUMN

### 草木が芽吹くように力強く逞しく

#### 高度成長の波

戦後の混沌とした状況下で、人々は食糧難に苦しみながらも新時代への希望を抱き、開墾、農地改革、学校、郵便局、役場庁舎、村営住宅、道路の整備などを着々と進めていった。

昭和40年代には簡易水道が敷かれ、未点灯地区にも電気が導入され、43年にはテレビが1.2世帯に1台、バイクが1.3世帯に1台、自動車が4世帯に1台の割合で普及するなど、村の生活文化は急速に発展していった。

その後も生活改善センターや保育所、商工会館、診療所、学校給食センター等を設置。50年代には、電報電話局、小野川生活改善センター、喰丸峠トンネルの開通、運動広場、昭和中学校等々。60年代にはライスセンター、しらかば会館等。平成に入り、健康増進施設、公民館、村営住宅、奥会津昭和の森、すみれ荘、特別養護老人ホーム、からむし工芸博物館、織姫交流館等々の施設が設けられ、昭和村はさらなる飛躍を遂げた。しかし、山々に囲まれた昭和村は交通の便が悪く、冬期間になると6線出ている幹線道路のうち3線が冬季閉鎖され、昭和～川口、昭和～下郷、昭和～柳津を繋ぐ道路だけが交通手段となっている。



昭和60年7月 第1回からむしの里手織りフェア、遠くは札幌、愛知から延べ1997名が来場。



平成4年 喰丸文化再学習センター開所式。文化人類学者 山口昌男先生の田舎からの文化情報発信基地にするのだというかけ声のもと多くのイベントが実施された。

## ■昭和村の誕生から ※日本の動向 ※世界の動向

- |      |    |  |
|------|----|--|
| 1994 | 6  | 交通死亡事故ゼロ7千日達成<br>全国的な猛暑<br>羽田連立内閣、村山自社さきがけ連立内閣<br>大江健三郎、ノーベル文学賞受賞<br><b>金日成死去、金正日後継発足</b>  |
| 1995 | 7  | すみれ荘落成<br>阪神大震災<br>地下鉄サリン事件  |
| 1996 | 8  | (株)県会津昭和村振興公社設立<br>からむしのはた音が環境庁「日本の音風景100選」に選定   |
| 1997 | 9  | 過疎地域の活性化で「国土庁長官賞」受賞<br>「田舎暮らしを楽しむ全国研究大会」開催<br>消費税5%<br>臓器移植法成立<br><b>ダイアナ元英皇太子妃事故死</b><br><b>鄧小平死去</b>   |
| 1999 | 11 | 特別養護老人ホーム「昭和ホーム」落成<br>(有)グリーンファーム設立<br>東海村原子力施設で臨界事故発生<br>平成の大合併スタート<br>2000年問題騒動<br>失業者300万人<br><b>ユーロ圏単一通貨ユーロ登場</b>  |
| 2000 | 12 | 優良公民館文部大臣表彰受賞<br>旧喰丸峠のけやき群が林野庁「森の巨人たち100選」に選定<br>乾燥調整施設設備<br>介護保険制度開始<br>雪印集団食中毒事件<br><b>南北朝鮮首脳初会談</b>   |
| 2001 | 13 | 毎日・地方自治大賞奨励賞受賞<br>村情報公開制度施行<br>昭和村ガイドブック「あんじゃこんじゃ」発行<br>上昭和地区特定環境保全公共下水道一部供用開始<br>からむし織の里整備事業「からむし工芸博物館」、<br>「織姫交流館」落成、県建築文化賞優秀賞受賞<br>昭和村総合防災訓練実施<br>アジア苧麻会議開催<br>小泉内閣発足<br>敬宮愛子内親王誕生<br><b>米で同時多発テロ事件</b>                       |
| 2002 | 14 | 三島町、金山町、昭和村で合併研究会結成<br>村民憲章制定<br>からむし織の里郷土食伝承館「苧麻庵」オープン<br>住民基本台帳ネットワーク導入<br>昭和村田島町生活バス運行開始<br>「ふるさとCM大賞」で県知事賞受賞<br>小野川分校統合<br>郷土芸能伝承館落成<br>学校完全週5日制、ゆとり教育化進む<br>日朝首脳会談、金日成国防委員長拉致を認め謝罪<br>拉致被害者5名帰国<br><b>EU域内12ヶ国通貨をユーロに統合</b> |
| 2003 | 15 | 小型除雪機貸出事業開始<br>両沼5町村合併検討協議会発足<br>「全国カスミソウふくしまサミットin昭和」開催<br>国道400号田島バイパス2号トンネル起工<br>カスミソウ栽培新規就農者受入事業開始<br>邦人外交官2人イラクで殺害<br><b>イラク戦争、フセイン政権崩壊</b><br><b>新型肺炎アジアを中心に世界的流行</b>  |
| 2004 | 16 | 両沼5町村法定合併協議会設置<br>下昭和地区農業集落排水一部供用開始  |



すみれ荘オープンセレモニー。



平成8年 きのこまつりのようす。



平成8年5月 昭和・田島間生活路線バス運行開始。



「日本の音風景百選」  
にからむし織のはた音が  
選ばれたことを報じる  
広報の記事。



昭和ホーム開所式。

## ■昭和村の誕生から ※日本の動向 ※世界の動向

- |      |    |  |
|------|----|--|
| 2004 | 16 | 集中豪雨災害、水稲被害面積7.0ha、カスミソウ5.4ha、被害総額2億4千5百万円<br>農林水産物集出荷貯蔵施設完成<br>昭和特定郵便局廃止、簡易郵便局となる<br>新潟県中越地震発生<br>年金制度問題深刻化<br><b>スマトラ島沖地震発生</b>  |
| 2005 | 17 | 「農村アメニティーコンクール」で農林水産大臣賞特別優秀賞受賞<br>豪雪(12月～1月)<br>小野川地区合併処理浄化槽供用開始<br>平成の大合併がピーク<br>愛・地球博<br>JR西日本福知山線脱線事故<br>郵政民営化法案成立<br>構造計算書偽造問題発覚<br>日本の人口が戦後初めて減少<br><b>ハリケーン・カトリーナがアメリカに大被害</b> |
| 2006 | 18 | 昭和村むらづくり委員会設立<br>携帯電話不通話地域解消事業で小野川地区に鉄塔整備<br>ライブドアショック<br>地上デジタルテレビの「ワンセグ」開始<br>北朝鮮テポドン2号発射実験、核実験<br><b>フセイン元大統領の死刑執行</b>  |
| 2007 | 19 | 村制施行80周年、記念要覧作成<br>国道400号田島バイパス二号トンネル(積入山)貫通<br>交流・定住施策本格化<br>新潟県中越沖地震発生<br>能登半島沖地震発生<br>団塊の世代の大量退職始まる(2007年問題)<br>日本郵政公社解散、株式会社・独立行政法人化<br>全国的猛暑                                    |

## COLUMN

### 昭和村を次代へとつなぐ、さまざまなお取り組みが始まる

#### 過疎への挑戦

昭和村の人口のピークは昭和30年。世帯数812世帯、人口4,810人だったが、それも束の間、若者を中心に都会へと流出、昭和35年ごろはそれが激化し、村には高齢者ばかりが残り、昭和46年には過疎地域に指定されるほどになっていった。

村では、人口流出を防ぐために企業の誘致に取り組んだり、若者たちの働ける場を模索、昭和50年には村の伝統工芸からむし織の製品開発や、昭和59年からは、それまで少数の先駆的な農家が行っていた花き栽培に本格的に取り組み、宿根カスミソウの栽培が始められた。

平成6年、昭和村の伝統工芸からむし織の技術継承を目的とし「からむし織体験生(織姫)事業」を開始、全国から多くの応募者が殺到した。その「織姫」募集も令和3年には28年目を迎え、これまでに何十人もの織姫たちが育っていった。

織姫の中には、昭和村で働きたいと定住したり、結婚したりする人たちもいて、喜ばしい結果をもたらした。

しかし、村の少子高齢化は依然として進んでいる。若い人たちにとっても、高齢者にとっても、住みやすく暮しやすい村づくりが望まれる。



平成18年 2月 除雪ボランティアの活動。



(松山下新田地内)

平成16年7月12・13日の集中豪雨災害。13日、1日の降水量が239mm。



(両原地区)



小野川分校統合記念行事の日。



両原活性化施設 昭和村郷土芸能伝承館落成。記念祝賀会にて両原早乙女踊りを演じる。



国道400号田島バイパス2号トンネル起工式。全長1,579m。

## ■昭和村の誕生から ※日本の動向 ※世界の動向

- |      |    |  |
|------|----|--|
| 2008 | 20 | 田舎暮らし体験住宅(喰丸地区)オープン<br>からむし工芸博物館入館者7万人達成<br>特定非営利活動法人「苧麻倶楽部」発足<br>スマートフォン普及開始<br>北海道洞爺湖サミット開催  |
| 2009 | 21 | カスミソウ販売額4億3千4百万円<br>新型インフルエンザ 村内流行<br>友好都市草加市 高砂小修学旅行来村<br>国道400号田島バイパス開通 冬期間通行可能<br>小野川地区で水芭蕉楽園交流広場を整備<br>エコカー減税、補助金制度創設<br>裁判員制度導入   |
| 2010 | 22 | 国道400号金山町玉梨地内で落石全面通行止<br>交通死亡事故ゼロ2000日達成<br>友好都市草加市と姉妹都市締結<br>草加市と災害時における<br>相互応援に関する協定書締結<br>姉妹都市草加市 高砂小修学旅行来村<br>小中津川気多神社・渡御祭「130年ぶりに復活」<br>小惑星探査機「はやぶさ」帰還   |
| 2011 | 23 | 村の空家バンク制度取組開始<br>地上デジタルテレビ放送・光再送信開始<br>光ファイバを活用し、防災用FM告知運用開始<br>「からむし生産用具及び製品」384点、<br>国の重要有形民俗文化財に指定<br>交通死亡事故ゼロ2579日でストップ<br>昭和村が福島県優良町村賞受賞<br>JA会津みどり昭和支店・ガソリンスタンド新装開店<br>喰丸小が舞台の映画「ハーメルン」撮影開始<br>東日本大震災発生、昭和村震度4<br>福島第一原子力発電所事故(メルトダウン)発生<br>テレビ放送が地上デジタルテレビ放送に切換<br>新潟・福島豪雨発生<br>(JR只見線、只見-川口間が不通) |
| 2012 | 24 | 全国初、放射能汚染状況重点調査地域解除<br>昭和温泉「宿泊棟」工事着手<br>村民文化祭50周年<br>第1回イチョウまつり開催(喰丸地区)<br>県道柳津昭和線「琵琶首バイパス」全線開通<br>喰丸小が舞台の映画「ハーメルン」撮影終了<br>東京スカイツリー開業  |
| 2013 | 25 | 昭和村公式マスコットキャラクター「からむん」に辞令交付<br>からむし織体験生制度20周年記念行事開催<br>昭和温泉「交流棟」工事着手<br>姉妹都市草加市の小学校、農山村体験交流事業開始<br>国道401号博士峠、トンネル事業化決定<br>本名昭司氏(佐倉)新嘗祭で<br>ひとめぼれ献上(11月皇居にて)<br>映画「ハーメルン」完成、特別先行上映会開催<br>富士山が世界遺産に登録<br>2020東京オリンピック開催決定<br>和食が無形文化遺産に登録  |
| 2014 | 26 | 昭和温泉「しらかば荘」新装オープン<br>からむし織の里「道の駅」認定・再オープン<br>からむし工芸博物館入館者10万人達成<br>国道401号博士峠工区(トンネル工事)<br>中心杭設置式開催<br>からむし生産伝承と織姫事業が<br>手づくり郷土賞(国土交通大臣表彰)受賞<br>昭和村のカスミソウが国内花卉で日本一の称号を得る<br>特別養護老人ホーム増床(ユニット館)着工  |

## COLUMN

### 次の百年へと飛翔する新しいステージへ

#### 躍進の10年

平成20年からの10年は、日本列島が頻発する大きな自然災害に揺さぶられた年でもあった。特にM9の東北地方太平洋沖地震は、本村でこそ最大震度4と軽微に済んだものの、直後の東京電力福島第一原子力発電所のメルトダウンで放出された放射性物質が、長くに渡って広域に風評被害をもたらした。本村では翌年のうちに全国にさがかけて放射能汚染状況重点調査地域から解除されたこともあり、カスミソウ出荷への風評の影響はほとんどなかった。

本村の主管産業として成長したカスミソウの栽培は、平成26年ついに国内花卉で日本一の称号を得る。これはひとえに関係者の地道な努力のたまものであり、安定した収益を確保することができるまでに成長した花卉栽培は、これから農業を目指す若い世代に魅力的に映ることを得て、平成29年に新規就農者を募るインターンシップ事業「かすみの学校」を開設。そしてこの年11月には「奥会津昭和からむし織」が国伝統的工芸品に指定という朗報ももたらされた。平成の30年間に種を蒔き大切に育ててきた花はいよいよ開花し、次の100年に向け揺るぎない一歩を踏み出した躍進の10年でもあった。



田島バイパス開通



姉妹都市締結調印式

## ■昭和村の誕生から ※日本の動向 ※世界の動向

- |      |     |   |
|------|-----|---|
| 2014 | 26  | 4月1日から消費税が8%に増税<br>全国的にマイマイガ大量発生  |
| 2015 | 27  | 小中津川村営住宅完成(2棟、12世帯)<br>草加市・昭和村<br>友好交流宣言30周年、姉妹都市締結5周年<br>台風18号関連豪雨災害発生(激甚被害に指定)<br>矢ノ原地区公衆トイレ完成(太陽光による浄化装置)<br>マイナンバー(個人番号)通知開始<br>J R北陸新幹線開業  |
| 2016 | 28  | 機構改革により「からむし振興室、観光交流係」新設<br>会津の三十三観音めぐりが日本遺産認定<br>(御蔵入7番札所佐倉観音寺)<br>野生動物の目撃・農業被害が拡大<br>昭和福祉会への福祉事業を一元化<br>特別養護老人ホーム・ユニット館オープン<br>松山公民館落成<br>新生「JA会津よつば」発足<br>J R北海道新幹線開通<br>熊本地震、鳥取県中部地震発生<br>国勢調査で国内総人口が減少(1億2709万人) |
| 2017 | 29  | 戸籍電算化運用開始<br>新規就農施策「かすみの学校」開設<br>喰丸小改修工事着工<br>上昭和地区簡易水道水源拡張工事着工(~30年)<br>国道401号博士峠工区(トンネル工事)起工式開催<br>「奥会津昭和からむし織」国の伝統的工芸品に指定<br>村政施行90周年、記念要覧発行<br>カスミソウ販売額4億1千2百万円<br>天皇退位に関する皇室典範特例法公布                              |
| 2018 | 30  | 交流観光拠点施設「喰丸小」改修工事完成<br>国道401号博士峠工区(トンネル工事)着工<br>昭和中学校文部科学大臣表彰受賞<br>北海道地震発生  |
| 2019 | 令和元 | 上昭和地区簡易水道水源拡張工事完成<br>日本で最も美しい村連合加盟<br>記録映画「からむしのこえ」完成<br>かすみ草振興協議会設立<br>ラジオ難聴解消工事着工<br>東日本台風19号災害発生<br>平成天皇生前退位・第126代天皇即位<br>10月1日から消費税が10%に増税<br>沖縄・首里城が焼失   |
| 2020 | 2   | 第6次振興計画策定<br>姉妹都市提携10周年、交流促進推進宣言調印<br>いこいの湯立替工事完成<br>ラジオ難聴解消工事完成<br>農林水産物集出荷貯蔵施設改修工事着工<br>郵便局と包括的連携協定締結<br>新型コロナウイルス感染拡大<br>立皇嗣の礼<br>JR常磐線全線再開<br>九州豪雨発生  |
| 2021 | 3   | 国道401号博士峠トンネル貫通<br>農林水産物集出荷貯蔵施設改修工事完成<br>カスミソウ販売額5億6千万円<br>国勢調査で国内総人口が減少(1億2614万人)<br>東京オリンピック・パラリンピック<br>新型コロナワクチン接種開始   |



「からむし」辞令交付



新嘗祭御田植祭



昭和温泉「しらかば荘」完成披露



道の駅開所式



国道401号博士トンネル着工式



昭和村農林水産物集出荷貯蔵施設改修工事完成披露会

※村十大ニュースから引用

## 【歴史】

周囲を険しい山々に取り囲まれた昭和村は、東西南北の様々な峠で他の町村と結ばれ、交易や人々の移動の要衝としての役割を果たしてきました。今では使われなくなった峠にも、その名残として一里塚が見られるほか、地の利を生かした牛首城跡を筆頭に、各地で館跡が確認されています。また縄文時代の遺跡もい

くつか発掘されており、土器などが採集されています。

戊辰戦争において村内で唯一の戦場となった矢ノ原には会津藩士野村新平の墓碑があり、大芦地区には民間の犠牲者佐藤音之助の墓はもちろんのこと、会津藩士の墓、新政府軍の墓と敵味方問わず戦死者を弔った墓が点在して残されています。



からむし織

## 【文化】

五穀豊穡、あるいは家内安全を切実に願ってきた日々の暮らしの中で、大切にされてきた神社、仏閣、境内に鎮座する巨木、道端の名も無き石仏達は、地区の住民によって大切に維持・管理されてきました。それは年中行事や風習などと密接な関わりを持ち、代表的なものでは村指定無形民俗文化財阿久戸の火祭り、両原の早乙女踊り、大芦ダイモチ引き木遣り、また国選定保存技術であるからむし生産・芋引きなどが、現在まで脈々と引き継がれています。



ダイモチ引き木遣り



交流観光拠点施設 いづみ

# 昭|和|村|の|宝

## 村文化財マップ



村指定天然記念物 矢ノ原湿原



国指定天然記念物 駒止湿原

昭和村には豊かな自然がたくさん残っています。博士山や御前ヶ岳などは、登山ガイドブックにも掲載され、多くの方が訪れます。一方、峠路とけやきの森など旧道を利用したトレッキングコースは「巨木を見ながら、手つかずの自然を身近に感じられる」と人気があります。

国指定天然記念物「駒止湿原」や村指定天然記念物（県自然環境保全地域）「矢ノ原湿原」は、希少な動植物が観察できる場所として、観光客のみならず子ども達への自然環境教育の場としても重要です。また、玉川や野尻川沿いには藤八の滝や綱木・玉川溪谷などが見られ、各地でおいしい清水も湧き出ていて、水資源の豊かさを体感できます。



水芭蕉としらかばの杜



### 【自然】



かしわの木



小中津川気多神社の石灯笼

安心な  
暮らしのために

第六次昭和村振興計画より

人それぞれの尺度で

「心地よく」感じることが出来る

誰一人取り残すことのない村

この村で暮らす全ての方が

※「てえらかな心」で心穏やかに

不安なく暮らせる村にしています。

そして、これを実現するため

行政と多様な主体が力を合わせ

互いの役割を果たしながら

地域課題の解決に取り組むとともに

これまで蓄積された歴史や文化

豊かな自然を守りながら

未来世代にこの村を引き継いでいけるよう

これまで以上に地域の特性を活かした

魅力ある村づくりを進めます。

※平らかな心

# 持続可能な協創のむら



からむし雪晒し

## ■ 互助の村づくりの確立

### ◆ 多様な主体との連携

本村は、人口減少・少子高齢化による過疎化が進み、地域差はあるものの、村内全域で地区の維持機能が衰退し、十年後には存続が危ぶまれる地区もあります。これまで、地域づくり応援事業や、日本型直接支払制度により、地域の資源を磨く活動や賑わいの創出の支援、地区の機能維持活動を支援してきました。今後より一層人口減少が進む中で、地域を維持していくために必要な課題解決のため、住民との対話の機会の充実を図るとともに、村民と行政さらには、社会福祉協議会、商工会や観光協会などの多様な主体と連携し、共に手を取り合い、互いの役割を果たし、一方に依存しない体制による村づくりを進めます。

### ◆ 地域の自主性の尊重

村の振興を考える上で、地域の振興は重要です。地区単位で、今後どうしていきたいのか、どうすべきか様々な分野について検討する機会を設け、将来のビジョンを描く支援をし、意欲をもつて取り組む地域を支援します。

### ◆ 広報・広聴機能の強化

互いに協力して、地域の課題を解決するために、情報の共有は必要不可欠です。幅広い年代に対応した媒体により情報を発信するとともに、広聴機能

をより強化し、いつでも誰でも、事業提案等を受け付ける仕組みを構築し、多様な主体と手を取り合う村づくりを推進します。

## ■ 多様な生き方を尊重できる

### 社会の形成

### ◆ 地域・住民との情報の共有

コミュニティの小さき故、必然的に干渉も多くなる一方で、それが人と人との関わりが深いという地域のよさでもあります。地域の構成員として役割を果たすとともに、全ての世代を巻き込んだ「誰もが居場所と役割を持つコミュニティづくり」を進め、心地よく暮らせる村の実現のために、地域の良さや地域課題・生活課題を把握するとともに、地域・住民との共有を行い、地域内でお互いに支え合う体制づくりを構築します。

### ◆ 共生社会の構築

価値観やライフスタイルが変化・多様化する社会において、様々な生き方・暮らし方が存在します。子育てや介護、障がい、生活困窮など様々な要因から生きづらさを感じる人も多いことから、相談体制の一元化と適切な支援体制を整備し、多様な生き方・暮らし方を尊重する社会の実現を目指します。

# 心地よく暮らせるむら



健康相談

■ウエルビーイング(身体的・精神的・社会的良特性)の確立

◆身体的良特性の確立  
各種検診事業の受診率を高め、疾病等の早期発見や治療につなげます。また、保健事業の充実を図り、健康意識の向上と生活習慣の改善に努めます。

◆生涯学習・社会体育の推進

様々な年代を対象とした生涯学習事業の実施による生きがいの創出や、リフレッシュのための社会体育の推進など精神的な良特性の確立を目指します。

■多様な交通手段の構築

◆長期的な見直しの策定

社会情勢の変化により目まぐるしく変動する移動に関するニーズを的確に把握し、将来的な見直しを策定し、本村にとって適切な公共交通のあり方を検討します。

◆公共交通機関に依存せず移動ができる仕組みの構築

ライドシェア(相乗り)事業などによる、共助による交通手段の確保を目指します。

■非常時の体制拡充

◆防災マップの更新

定期的に防災マップの更新を行い、大規模水害を想定した浸水エリアの特定その他、避難所の見直しなど、非常時に備えます。

◆非常備消防施設・設備の適切な維持

非常備消防施設(消火栓等)、設備(消防団車両)などを適切に維持し、有事の際に適切な利用ができるよう管理に努めます。

■雪とともに暮らす

◆高齢者世帯への支援

高齢者等世帯の除雪のため、社会福祉協議会等と連携した支援を行うとともに、屋根ぐしへの電熱線の設置や地下水ポンプの設置などに対して支援を行います。

◆除排雪体制の維持

生活の基盤である村道などを一定時刻までに除雪を完了するとともに、除排雪体制維持のため雪寒機械の計画的な更新を行います。

■空き家を活かすとともに暮らしを見つめる

◆空き家の利活用と危険な家屋の除去

活用できる空き家の利活用をより推し進めるとともに、集落単位での空き家に対する意識共有を進め、ポケットパークやテレワーク利用施設としての活用を検討します。また、利活用が困難で周囲へ危険を及ぼす恐れがある家屋について、所有者との交渉を進め、解体を支援します。

# 生きる力を育む教育のむら



オンライン交流事業

## ■特色ある教育システムの構築

### ◆小中一貫教育の推進

少子化が進行し、近年は小・中学校共に複式学級が常態化しているとともに、教職員数も削減されています。子どもたちがより大きな集団の中でより多くの人と関わりながら学ぶことで、学力や体力の向上はもとより、人間性や社会性を育むことができるよう、小中一貫教育の実現に向けて努力します。

また、子どもたちが「生きる力」を身につけられるよう、情報教育や国際理解教育、環境教育の充実に努めます。

### ◆地域と連携した教育の実施

持続可能な昭和村を築いていくためには子どもたちの「故郷を愛し、貢献しようとする心」を養うことも大切です。高等教育や一定期間の社会経験を経て村に戻ったり、村を出てからも村と関係を持ち続けようとしたりする人材の育成を目指します。

「からむし学習」や「花育」など、地域に根差した資源を活用した総合的な学習を推進するとともに、地域人財を活用して、児童・生徒の健全育成と世代間交流を図ります。

## ■心地よく子どもを育てられる環境

### ◆子育て環境の充実

妊娠・出産から子どもの成長に応じた切れ目のない支援を行うため、関係機関と連携をさらに深め、安心して子育てできる環境を構築します。

子育て支援については、保育所や放課後児童クラブ運営の充実に努め、保護者が安心して働きながら子育てができる環境を維持します。

また、子育て期間における医療費の助成や乳幼児衛生用品の支給を継続し、子育て世代の負担軽減を図ります。

### ◆複式学級支援及び、特別教育支援員の設置

複式学級の実質的な解消を目指して複式学級支援講師を、また特別な支援を必要とする児童・生徒も等しく教育を受けることができるよう特別支援員を、村単独で配置し、充実した教育が受けられるよう引き続き取り組みます。

### ◆教育施設の適切な維持

学校における児童生徒の安全性を確保するため、小・中学校などの教育関連施設で修繕が必要なものは学校長寿命化計画に基づいて計画的に実施し、安心して子どもを託すことができる環境を維持します。

# 生業と誇りある仕事を生むむら



かすみ草畑

## ■百年産地宣言

### ◆農業インフラ維持

用排水路や農道などの営農にあたって必要な基盤の計画的な整備を進めるとともに、地域が主体となつて行う修繕等を支援します。

### ◆担い手への支援

認定農業者など、地域の担い手に対して必要な支援を実施し、一次産業の下支えを行います。

### ◆農地の線引きと

### 再生困難農地の利活用

農業従事者の減少により、耕作できない面積に物理的な制約が生じ始めていることから、「守るべき農地」を明確化し、それにより「農地として再生利用が困難な農地」について活用の方法を模索します。

## ■継業・起業

### ◆商工業者への支援及びニーズ調査

地域で生活する人の暮らしを支えるために、村内に存在する様々な業種を維持していく必要があるため、村内消費喚起のための事業の実施や、継業や起業に向けた様々な業種のニーズを把握し、施策を展開します。

### ◆新規就農者への支援

主要産業である、「かすみ草栽培」へ従事する人を確保し、夏秋期生産量日本一の産地として維持し続けるための新規参入者へ支援を行います。

## ■いとなみを継ぐ

### ◆からむし織体験生事業

からむし織の一連の工程と、農山村での暮らしを体験するプログラムを通して、本村の伝統文化のPRに努めるとともに、関係人口の拡大を図ります。

### ◆からむし技術の継承

からむしの栽培や糸づくりなどの技術を次世代へ繋いでいくために、生産量の確保のための取り組みや、技術伝承への支援、関係団体への支援を行います。

### ◆地域の資源・民俗資料の保全

本村が有する天然記念物や自然などの環境の保全・保護や、民俗資料の保全に努め、先代から受け継いできた資源を次の世代へ繋がります。

## ■有害鳥獣被害の軽減

### ◆地域ぐるみでの鳥獣被害対策の確立

地域ぐるみで鳥獣被害対策に取り組む地区等に対して支援を行い、横展開できるような事業（モデル事業）への取り組みを推進します。

### ◆捕獲用機材や防護柵の充実

個人や団体で鳥獣被害対策に取り組む方への防護柵や罠の購入費用の一部を支援するとともに、デジタル技術を活用した箱罠などの導入を行い、対策用機材の充実を図ります。

# 先端的過疎への挑戦



除雪車両の遠隔操作実証実験

## ■先端技術を活用した 各種施策の展開

### ◆公共インフラWiFiの整備

人口減少社会に突入し人的リソースが限られる状態で、これまでと同程度のことを維持していくためには、テクノロジーの導入か、一人が何役も効率よくこなす必要があります。

例えば、災害時の河川の水位確認など、橋梁にセンサーをつければ、危機を犯して現地へ出向き確認する必要はなくなります。農業であれば、ドローンの活用とともに、ICTを活用した無人機械による代掻きや田植え作業、水田の水管理、生育診断や、有害鳥獣の追い払いが可能となっています。医療や福祉、教育の分野でも様々な活用方法が見込まれます。日々様々な技術が開発され、不可能と思われていたことが、次々と可能となり、我々の暮らしは豊かなものとなっていきます。本村ではまず、公共インフラWiFiの整備を進めます。また、居住エリアカバー率百パーセントを目指し、公共インフラWiFiを村内全域に整備し、それを活用した様々な施策展開の礎とします。

### ◆光ネットワークの安定的な維持

各世帯に光ケーブルを引き込み運用している、FM告知端末（防災行政無線端末）及び、地上デジタル放送再送信設備や幹線ネットワークについて、

適切な保守や修繕の実施により、安定的な運用を行います。

## ■実証フィールドとしての 価値の創造

### ◆DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

全国では様々な企業が様々な地域で実証事業や研究を行っています。これまで本村では多様な主体と連携し事業を行ってきたのは、教育・福祉の一部の分野だけです。

村民の暮らしを豊かにするためのツールとしてのデジタル技術を生活の中に浸透させ、防災・福祉・医療・農業・教育など様々な分野において活用を進めます。

また、人口の半数が高齢者である状況を鑑み、デジタル情報格差の解消に向けた取り組みを進めます。

### ◆実証フィールドとしての多様な 主体との連携

顔の見える千二百人という村の状況を強みに、様々な課題解決に向け、企業や教育機関と連携し、過疎地発の未来の標準となる技術などの実証フィールドとして、連携を進めます。

# 選択と集中の行政運営



除雪状況

## ■事業の選択と集中

### ◆施策の効果測定

現在村では多種多様な事業を実施しており、その事業規模（事業費）も様々です。多くの事業においてその評価指標として事業費が挙げられますが、その効果は事業費だけでは図ることが困難です。事業費をかけずとも、大きな効果が得られる事業もあります。そのため、村が実施する事業の有効性や効果を適切に測定することにより、常に事業を検証し受益者目線と公平性のバランスの取れた事業の執行に努めます。

### ◆事業の効率性の向上

現在展開している主たる事業の総点検を実施し、限られた財源や人材を費用対効果の高い事業に振り向けることで、財政の健全化や住民サービスの向上、人員配置の合理化を図ることが必要です。

したがって、外郭団体などを含めた事業の執行のあり方についても検証を行い、人口減少社会における効率的な事業執行の方法を検討します。

### ◆公共施設の適正化

整備から年数が経過した設備など安定的な運用のために、計画性をもって必要な改修を行います。また、村道や橋梁などのインフラについて、その必要性等について検討し、選択と集中により効果的な実施に努めます。

## ■持続可能な自治体経営の確立

### ◆効率的・効果的な行政運営及び組織運営

人口が減少する中で、この村が持続可能であるための最適解を見出すための挑戦やそれに伴う失敗を恐れず、業務の効率化のためのデジタル技術の活用や、それらによる経常的な事務費用の圧縮に努めます。

さらに、効果的な事業の執行のために、「村民から信頼され、企画力・創造力を持つ、常に考え、改善を繰り返す人材」を育成します。

### ◆長期的な財政の安定化

自主財源に乏しい本村においては、地方交付税などの国からの支援（依存財源）に頼りがちです。自主財源比率を高めるための未来への投資や、既存の枠組みに囚われない積極的な国・県の補助事業の活用により財源の確保に努めます。また、財政の弾力性を示す「經常収支比率」は、一般的に八十パーセント程度が適正水準と言われており、この値が高いほど財政が硬直化し、投資的経費の執行ができません。經常収支比率を改善し、財政の弾力性を高め、長期的な財政の安定化を目指します。

### ◆地方公営企業会計への移行

上下水道などの事業会計を地方公営企業会計へ移行することにより、経営状況・財政状況を的確に把握し、安定的な運用と、財政の健全化に努めます。

# 行政・議会



議会風景

## ■行政

村民との対話の村政を基本姿勢として、村民と共に歩み、村民の目線に立った行政を行い、住民参加による意見や提言を政策に活かし、住民主役の村づくりを目指します。

また、開かれた行政を実現するために、情報の公開により住民との信頼確保に努めます。

## ■議会

議会は八名の議員で構成され、地方分権改革が進められる中、分権型社会にふさわしい議会について活発な討議をしています。

また、創意と工夫による村づくりへの取り組みにあたり、公平性、透明性等、開かれた議会・村民参加を推進する議会を目指し活動しています。



懇談する村三役



地域づくり懇談会



課長会議風景



村長 舟木 幸一



副村長 阿部 浩陽



教育長 安藤 哲朗



議長 馬場 政之



副議長 馬場 栄三

## 村章

The village seal

昭和村の平和と発展を表すため、ハトが羽を広げたすがたを表現し、その中に「シヨウワ」の文字を入れ村章とした。



## 村民憲章

Showa villager's charter

わたくしたちは、  
美しい自然といにしへの歴史に恵まれた  
心豊かな昭和村民です。  
わたくしたちは、  
先人の努力をたたえ、  
その創造の歴史を受け継ぎ、  
躍進する未来をめざして村民憲章を定めます。

- 一、伝えましょう はた音の響き 手技の知恵
- 一、守りましょう おいしい水 豊かな大地
- 一、創りましょう 健やかな心と体 長寿の里
- 一、育てましょう 助け合う心 いたわりの気持ち
- 一、広げましょう 明るい笑顔 みんなの和

## 【自然】Nature

昭和村は、福島県の西部に位置し、総面積二〇九.四六km<sup>2</sup>を有する農山村で地形は南は越後山脈である帝釈荒海連峰より北に進んだ駒止山からY字に張り出した御前ヶ岳(一、三三四m)、博士山(一、四八二m)、志津倉山(一、二〇三m)と西脈としての黒岩山、大妻山に囲まれた盆地状の中にあり、ほとんどが山岳地帯となっています。

## 【歴史】History

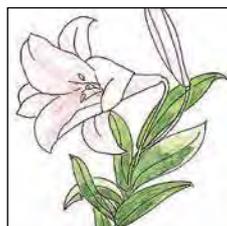
本村には縄文初期のころと思われる土器が出土しており、本村に人が住みついたのは約八千年前とされています。史実としては、文治五年源頼朝が平泉の藤原氏を征討したとき、功のあった山ノ内氏が領地を分け与えられたこと以来と思われる。寛永二〇年(一六四三年)保科正之公が会津二十一万石を領したとき、本村を含む地域は会津藩とならず、幕府直轄領南山御蔵入として統治され、文久二年(一八六二年)に会津藩に編入されました。変遷ののち、昭和二年(一九二七年)旧野尻村と大芦村が合併し、昭和村が誕生、現在に至ります。



## 村の花「サユリ」

Lilium rubellum(lily)

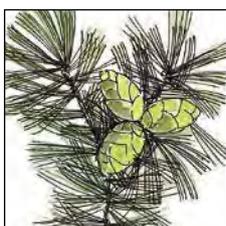
古くから昭和村に多く自生しています。直径五〜六cmの可憐な花は初夏の日ざしをいっぱいを受けて花開きます。



## 村の木「ムスブツ」

Pinus parviflora(small pine tree)

北海道本州に広く分布しており、昭和村にも数多く自生しています。盆栽や屋材木として昔から親しまれてきました。やさしい名を持ちますが、深い雪に耐えて枝を張るその姿は、昭和村を象徴しているかのようです。



## 村の鳥「ヤマガン」

Panus varius

茶目と気たつばりの動作時には宙返りなどをして愛嬌を振りまき、誰からも愛されるかわいらしい小鳥です。5月ごろから山地の樹洞などに営巣をはじめます。ヤマガンが忙しく動き始めると昭和村も初夏を迎えるのです。





令和4年3月

編集・発行◎福島県昭和村 総務課

〒968-0103 福島県大沼郡昭和村大字下中津川字中島652番地

TEL0241-57-2111 FAX0241-57-3044 <https://www.vill.showa.fukushima.jp>